



損保ジャパン日本興亜 環境財団ニュース Vol.3



Sampo Japan
Nipponkoa
Environment
Foundation

発行者／公益財団法人損保ジャパン日本興亜環境財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1 TEL：03-3349-4614 FAX：03-3348-8140

URL：http://sjnkef.org/ E-mail：office@sjnkef.org

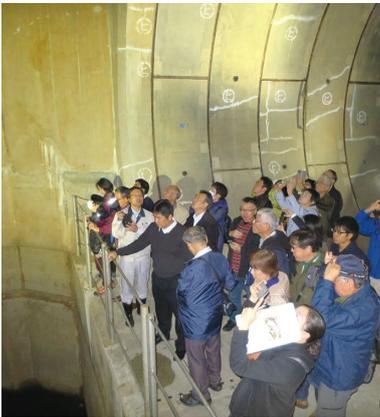
1. 市民のための環境公開講座「環七地下調節池を見学しよう」を開催

「市民のための環境公開講座」今年度のエンディング特別講座として都市防災の仕組みを学ぶため、東京都杉並区にある「環七地下調節池」を見学しました。こちらの施設は台風などの大雨の際に神田川・善福寺川の増水分を貯水する機能を持ち、周囲一帯の洪水被害を未然に防いでいます。約40名の参加者は地下貯水池を歩いたり施設職員さんからの解説を聞き、気候変動への適応策を含めた都市防災計画について学びを深めました。

(実施協力：東京都第三建設事務所)



管制室で実際の管理方法を解説いただきました



地下43mの地下調節池を見学しました



壁面の一部には地元の小学生が描いた絵があしらわれています



模型を使って施設機能の全体を学びました

2. 2016年度環境保全プロジェクト助成の交付先が決定

「環境保全プロジェクト助成」は、環境問題に取り組むNPO・NGO等の環境保全プロジェクトがより充実したものとなるよう、一件あたり20万円を上限に助成する制度です。第14回目となる今年度は、これまでの「地域の環境保全部門」に加えて、新たに気候変動問題の普及啓発活動にも対象を拡大して、下記15団体へ助成することを決定しました。

【2016年度助成先】

①地域の環境保全部門

所在地	団体名	概要	金額(万円)
山形	やまがたヤマネ研究会	野生動物を守り未来の担い手を育てる活動	17
茨城	つくば市環境マイスターの会	自然観察会の開催プロジェクト	20
鳥取	いんしゅう鹿野まちづくり協議会	耕作放棄地を蘇らせる果樹の里山プロジェクト	20
福島	須賀川に清流を取り戻す市民の会	川に清流を復活させる保全プロジェクト	20
滋賀	琵琶湖お魚探検隊	環境保全に関する教育啓発・人材育成プロジェクト	15
愛知	劇団シンデレラ	ミュージカルを通じて熱帯雨林保護を伝える活動	20
長野	庄内ほたと水辺の会	ホテルをシンボルとした環境保全活動	17
静岡	NPOサプライズ	こどもたちとプロが創るコラボ情報マガジン制作	20
兵庫	棚田LOVER's	棚田の保全・再生を通じた環境教育プロジェクト	20
沖縄	石西礁湖サンゴ礁基金	畑と海をつなぐサンゴの保全活動	20

②気候変動部門

所在地	団体名	概要	金額(万円)
東京	環境金融研究機構	環境金融活動への表彰	20
神奈川	日本ソーラーッキング協会	太陽光を活用したソーラーッキングの普及プロジェクト	20
栃木	ソーラーシティ・ジャパン	自然エネルギーを活用した暮らしと省エネ活動の推進	19
東京	日本インタープリテーション協会	日米インタープリテーションフォーラム(仮称)の開催	20
兵庫	SEEDS Asia	ミャンマーにおける気候変動・防災教育の普及活動	20

3. CSOラーニング卒業生交流会の開催

大学生、大学院生を環境NPOへ8ヶ月間インターンとして派遣するCSOラーニング制度。今年は仙台と大阪で卒業生の交流会が開催されました。各人が卒業後も取組んでいる環境活動の情報交換などを行いました。

仙台 (11/12~11/13)

宮城地区のOB・OGが中心となり東北地方の食文化である「芋煮」など東北地方を知る体験を行う合宿として通称「いもっしゅく」を2009年度から実施しています。8回目となる本年度は15名が参加しました。初日は宮城県栗原市で芋煮を体験し、翌日は震災被災地である女川町と石巻市を訪問、現地の復興を支えるNPO職員のガイドで見学し、また実際に被災から復興の道を歩んでいる地元漁師の話を行いました。



復興を目指す女川の海をNPO職員の解説を聞きながら眺めました



石巻市の海苔漁師さんに被災時と復興に至るお話を行いました

大阪 (12/3)

16回目となるOB/OG交流会は、現在瀬戸内で地域おこし協力隊として活動する小松氏(2003年度生)の呼びかけで今回初めて大阪で開催されました。当日は、音風景研究家の岩田氏(2003年度生)の案内で街の音を聞く「音さんぽ」や、企業のCSR部門に勤務する小川氏(2004年度生)からの活動報告等を実施しました。



家族連れで参加した同窓生も

4. 環境保全プロジェクト助成先の団体を訪問

昨年度にプロジェクト助成をした「柳瀬川の最上流をきれいにする会」を訪問し、会の活動と助成金の活用について伺いました。

活動地域は埼玉県所沢市・西武ドーム近くの狭山湖を源流とする「柳瀬川」の最上流。以前は下水道が普及していなかったためドブ川で、自転車や古タイヤなど粗大ゴミも放置されていました。かつての多くの魚が棲み、蛍が舞い飛ぶような清流に戻すために、11年前から地域住民で河川の清掃を続けています。

【清掃活動】

会の設立から10年が経過し、参加する地域住民も増加を続け、近隣の小中学校の生徒や県や市も巻き込んで定期的に清掃活動を継続しています。財団の助成金でチェーンソーや刈払機などを購入し、川の流域に倒れ込む竹や樹木、下草刈などが効率的にできるようになったそうです。



清掃風景

【蛍の舞、桜が咲く川辺】

徐々に清流が蘇りつつあり、会設立10周年の昨年からは蛍の育成を始め、蛍の幼虫や餌となるカワニナやタニシを放流。その後、毎日のように蛍の育成場の清掃やザリガニ駆除などを行い、初夏には見事に蛍が孵りました。昨年の観賞会には近隣の住民など200人以上が集まり、幻想的な蛍の舞を堪能しました。



蘇った清流(右側の細い水路は蛍の育成場)



蛍の餌になるカワニナ

会長の鈴木さんによると「この活動を通じて小中学生を含めた地域住民の環境意識が高まり、さらに世代間の交流や地域の連携も強くなった」とのこと。いまでは清掃活動が小中学校の総合学習に組み込まれるようになるなど、その活動範囲が徐々に広がっています。